

令和元年度スポーツ庁

大学スポーツ振興の推進事業  
(大学スポーツアドミニストレーター配置事業)

成果報告書

令和2年3月

東京国際大学

## 目 次

(1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について	1
(2) 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について	3
(3) 先進的モデル事業の実施状況について	4
強化クラブ総括	4
企画マーケティング総括	8
S E I 事業総括	14
(4) 今後の予定	24

大学スポーツ振興の推進事業に関しては、

- (1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について
- (2) 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について
- (3) 先進的モデル事業の実施状況について
- (4) 今後の予定

の四つに分けて報告いたします。

また、◎強化クラブ総括、◎企画マーケティング総括、◎SEI 事業総括 の3部門にて、より具体的に分かりやすい報告をするために、それぞれにおいて使用した図、表、資料には、この報告書全体としての通し番号化してありますので、ご確認下さい。

#### (1) スポーツ分野の統括業務の実施状況について

事業実施に必要な人員・組織体制及び連携体制、業務管理を適切に遂行できる体制“組織体制と連携体制”は、以下の二つの図(図1、図2)のように、

- ・「国際スポーツ推進機構」
- ・「①強化クラブ総括、②企画マーケティング総括、③SEI 事業総括」
- ・「強化クラブ」

の3部門としている。

「国際スポーツ推進機構」は、理事長・総長の直轄組織として、学長である機構長(ISA: International Sports Administrator)の元、強化クラブの総括管理と、学内の人的・物的資源の有効活用、そして学内各部署の横断的提携を担う部門であり、本事業の中心的役割を担っている。事務局長を中心とした大学事務局は、国際スポーツ推進機構に対して、“業務管理”を中心としたアドバイスや支援を行う連携体制を担っている。

「①強化クラブ総括、②企画マーケティング総括、③SEI 事業総括」は、「国際スポーツ推進機構」の管轄下にあり、以下の役割を担っている。

- ①強化クラブ総括: 大学内の強化クラブの学生に関するすべてを取りまとめる。
- ②企画マーケティング総括: 強化クラブやSEI 事業に関連する広報、渉外活動等対外的な役割を担う。
- ③SEI (Sports&English communication Integration) 事業総括: “英語力”と“スポーツ力”をコアにした新たな取り組みのすべてを取りまとめる役割を担う。

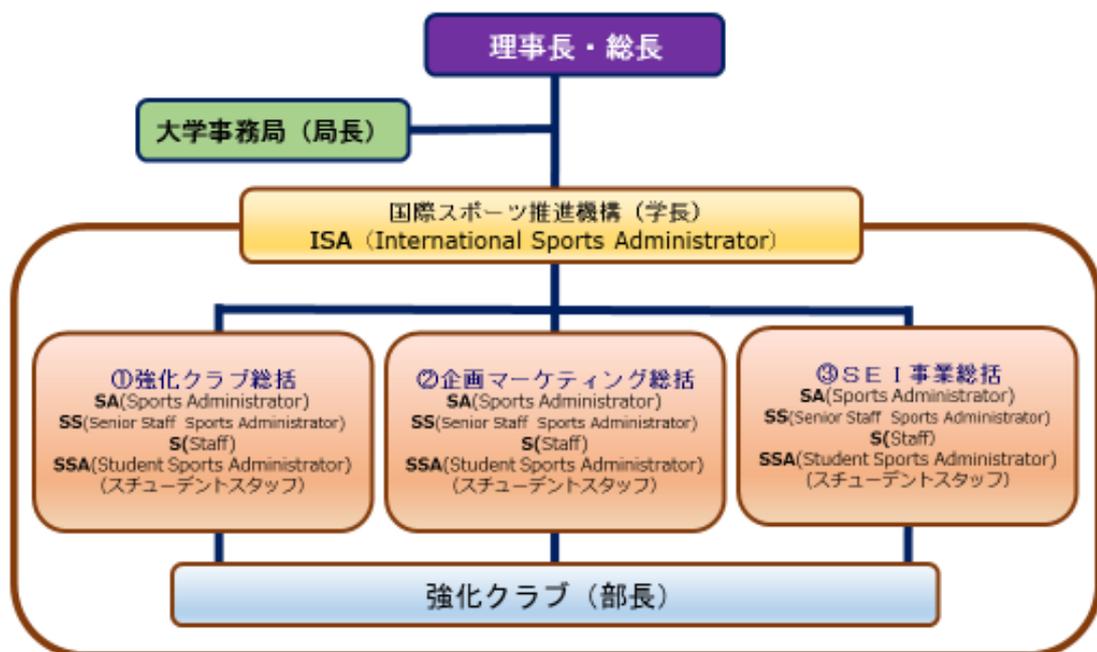
組織を構成する各総括の“人員”としては、1名の“スポーツアドミニストレーター(SA: Sports Administrator)”である責任者と、それを支援する教員による1~2名の“スポーツアドミニストレーター”であるシニアスタッフ(SS: Senior Staff)及び複数名のスタッフ(S: Staff)を配置している。本事業の養成対象となる学生によるチューデントスポーツアドミニストレーター(SSA: Student Sports Administrator)は、一定期間毎にそれぞれの総括に配置され、“心・技・体”を通じた講義と実習体験により、養成する予定であったが、現在のところ、十分に機能しておらず、資格を取得するために必要な講義と一部の実習を組み込んだ演習形式である「スポーツ・アドミニストレーション入門」と「スポーツ・アドミニストレーション」を受講している段階である。いずれも、

講師と受講生の双方向のやり取りを中心とした“アクティブラーニング”形式の授業である。

「スポーツ・アドミニストレーション入門」は、主に1年生を対象とした、スポーツアドミニストレーターとしての基礎的な知識・能力を修得するためのものである。これに対して、「スポーツ・アドミニストレーション」は、主に2年生を対象とした、「スポーツ・アドミニストレーション入門」を受講後に、スポーツアドミニストレーターとしての応用的な知識・能力を修得するためのものとなっていることから、いわゆる、知識の“積み上げ方式”の講義（座学）というよりは、演習に近い講義となっている。具体的には、将来、大学を中心とする地域住民や小中高生を対象としたスポーツイベントを実施し、そこから得られた情報や収益金などを、大学や学生が有効活用できるようにするための実習と、その反省により、更に、安全・安心や効率・効果と継続面などから、よりハイレベルで開催が待ち望まれるイベントにするための“パネルディスカッション”も行っている。

「強化クラブ」は、本学が特に強化を推進しているスポーツ関連の部であり、12のスポーツクラブと1の吹奏楽団がある。それぞれのクラブと楽団には、部員の学業を含めた学生生活全般を支援する部長を1名（クラブの特殊な事情に即して、さらに副部長が1名の2名体制の場合もある）配置している。

図1 事業の実施体制（大学内組織図）



## 図2 各総括の責任者、シニアスタッフ、スタッフおよび業務

### ①強化クラブ総括

- ・責任者（スポーツアドミニストレーター）：空林 徹
- ・シニアスタッフ（スポーツアドミニストレーター）：赤池行平、堀川昭子
- ・スタッフ：早川洋子、三好英次、山崎真之、一寸木洋平

- 1) 緊急時対応計画作成（早川、三好）
- 2) スポーツ医科学に基づく外傷・障害予防（三好、一寸木）
- 3) 指導者の育成（早川、三好、山崎、一寸木）
- 4) 学生の学業成績管理（緊急時対応計画作成）（早川、山崎）

※今年度中に行う必要がある内容は、

「スポーツ医科学に基づく外傷・障害予防策」、「指導者育成プラン」、「学生の学業成績管理制度」

### ②企画マーケティング総括

- ・責任者（スポーツアドミニストレーター）：碓井外幸
- ・シニアスタッフ（スポーツアドミニストレーター）：田部井潤
- ・スタッフ：高田知和、上代圭子、梶田美奈子

- 1) 集客イベントの実施（高田、梶田）
- 2) 集客イベントのまとめと精査（高田、梶田）
- 3) 集客イベントの考察・企画（高田、梶田）
- 4) パネルディスカッションの企画・運営（上代、梶田）
- 5) 事業の実施と評価（上代）

### ③SEI 事業総括

- ・責任者（スポーツアドミニストレーター）：碓井外幸
- ・シニアスタッフ（スポーツアドミニストレーター）：麓 正樹、阿部隆行
- ・スタッフ：木原慎介、布川清彦、鄭 志誠、田中マキ子

- 1) 「英語科目」を担当するネイティブ教員との連絡調整、サポート（鄭）
- 2) 「スポーツ科目」を担当するスポーツ指導者との連絡調整、サポート（布川）
- 3) 両科目の統括的管理、サポート、その他（布川）
- 4) 受講者の習得度と意欲を指標とした成績評価の実施（鄭、木原、田中）
- 5) 次年度プログラム、ボランティア、イベントに向けた企画検討（布川、鄭、木原、田中）

- (2) 大学スポーツアドミニストレーターの配置の状況について  
スポーツアドミニストレーターの配置、役割は上記「図2」のとおりとなっている。

(3) 先進的モデル事業の実施状況について

国際スポーツ推進機構 (①強化クラブ総括・②企画マーケティング総括・③SEI 事業総括)

①強化クラブ総括

【大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施】

- ・第 101 回全国高等学校野球選手権長野大会決勝戦実況解説 (東京国際大学; 赤池行平、2019 年 7 月 21 日、信越放送ラジオ)
- ・長野県内公立高校野球部に対する技術・トレーニング指導 (東京国際大学; 赤池行平、2019 年 8 月 8 日～9 日)
- ・学会発表 (第 27 回日本運動生理学会大会: 広島大学東広島キャンパス、2019 年 8 月 23 日～24 日) 「野球用ヘルメット装着の有無が打撃精度に与える影響」 (東京国際大学; 赤池行平、麓正樹、碓井外幸)
- ・科学的知見に基づくコラム“野球一考”を、長野県野球専門誌「nines」に連載中 (東京国際大学; 赤池行平)。
- ・学会発表 (2019 年北陸体育学会: 石川県立大学、2019 年 11 月 16 日) 「野球用ヘルメット装着の有無が打点位置に与える影響～上方に抜ける軌道を描く球種を想定して～」 (【資料 1】東京国際大学; 赤池行平、麓正樹)
- ・研究発表 (日本野球科学研究会第 7 回大会: 法政大学多摩キャンパス、2019 年 12 月 1 日) 「野球用ヘルメット装着によるバット面上の打点位置の差 ～「抜き球系」の球種を想定して～」 (東京国際大学; 赤池行平)
- ・学会発表 (第 8 回日本トレーニング指導学会大会: 帝京科学大学千住キャンパス、2019 年 12 月 8 日) 「野球用ヘルメット着用の有無が打者の頭部動作と打撃精度に与える影響」 (【資料 2】東京国際大学; 赤池行平、麓正樹)
- ・研究発表 (NSCA ジャパン主催ストレングス&コンディショニングカンファレンス: 神戸ファッションマート、2019 年 12 月 15 日) 「野球用ヘルメット着用が打者の頭部変位と打撃精度に与える影響 ～初期頭部上方変位を補正する動き～」 (【資料 3】東京国際大学; 赤池行平)
- ・学術論文 「The Effect of Wearing a Baseball Helmet with a Brim and Ear-guards on Baseball Hitting Accuracy (日本運動生理学会査読審査済み)」Advances in Exercise and Sports Physiology Vol. 25(4)掲載予定 (東京国際大学; 赤池行平、麓正樹、碓井外幸)

## 野球用ヘルメット装着の有無が打点位置に与える影響

上方に抜ける軌道を描く球種を想定して

○赤池行平（東京国際大学），麓正樹（東京国際大学）

キーワード：ヘルメット装着の有無，初期頭部上方変位，短軸上打点位置，腰部変位，補正動作

### 【目的】

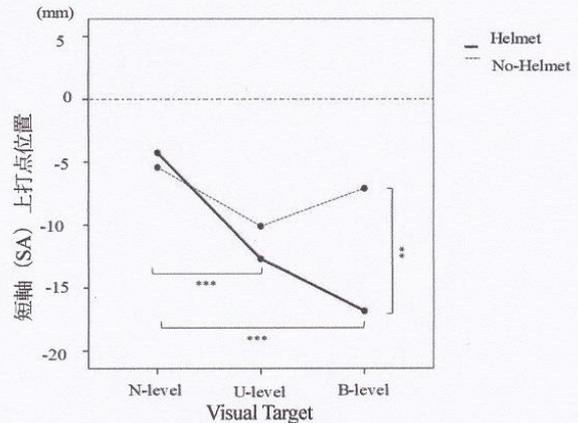
野球の打撃に関する研究では、水平方向に移動する物体を視覚追従する研究はあるが、リリース直後に一瞬上方に抜けるような軌道を描く、「カーブ」に代表されるような球種に対する研究はほとんどない。また、視野制限をもたらす可能性がある野球用ツバ付きヘルメット（以下ヘルメット）の着用は、上方に抜けるような軌道を描く球種を視覚追従する際には、それに伴い頭部の上方への動きが大きくことが予測されるが、このような状況下における研究はほとんどない。以上のことから、本研究では、ヘルメットの着用の有無が、頭部動作と打撃精度に及ぼす影響について調べた。

### 【方法】

野球経験のある大学生 14 名にヘルメット着用下と非着用下において、カーブなどの上下方向へ変化する球種を想定し、3 段階の高さ（N-level、U-level、B-level）に設定した Visual Target（VT）を Take-back 局面において視認させてから、ティースタンド上のボールを打たせた。打撃精度は、バットに貼付した打点記録紙上に打球痕を記録し、打撃面上の基準位置からの距離を、長軸（LA）と短軸（SA）方向について求めた。

### 【結果】

ヘルメット着用下では、打者の Take-back 局面における初期頭部上方変位が非着用下よりも増幅した。LA 上の打点位置はヘルメット着用下においてバット面上のグリップ方向に移動した。SA 上の打点位置は、視認する VT が高ければ有意に低く、さらにヘルメット着用下において非着用下よりも有意に低かった。



### 【考察】

上記の結果が得られた要因として、Take-back 局面で生じた初期頭部上方変位を、その後の Forward-swing 局面で補正するような代償動作の可能性を考えた。そこで Impact 局面における「頭部の高さの差」と、「SA 上打点位置の差」の値の相関関係を、有意差が認められた N-level 対 U-level、N-level 対 B-level の組み合わせで調べた。その結果、両組み合わせに有意な差が存在した。このことは、初期頭部上方変位を補正するような頭部の動きと、打点位置の差の間に、何らかの関係があることが推測される。また Impact 局面の頭部の高さや腰部の高さには、ヘルメット装着時と非装着時ともに強い相関が認められたことから、この代償動作は、頭部だけではなく下半身の各関節を動員した協調的な動作である可能性も示唆された。

### 【引用参考文献】

Akaike K, Fumoto M, Usui S (2018). The Effect of Initial Head Movement on Baseball Hitting Accuracy. *Advances in Exercise and Sports Physiology* Vol.24(2). 27-38. 他

**野球用ヘルメット着用の有無が打者の頭部動作と打点位置に与える影響**

赤池行平、麓正樹

東京国際大学 人間社会学部

**【背景】** 野球の打撃に関する研究では、水平方向に移動する物体を視覚追従する研究はあるが、リリース直後に一瞬上方に抜けるような軌道を描く、「カーブ」に代表されるような球種に対する研究はほとんどない。また、視野制限をもたらす可能性がある野球用ツバ付きヘルメット（以下ヘルメット）の着用は、上方に抜けるような軌道を描く球種を視覚追従する際には、それに伴い頭部の上方への動きが大きくなり、バッティングに影響することが予測される。実践状況下では、このような球種に対する対応力も不可欠であるが、研究はほとんどない。

**【目的】** このため本研究は、ヘルメットの着用の有無が、頭部動作と打撃精度に及ぼす影響について調べた。

**【方法】** 野球経験のある大学生14名にヘルメット着用下と非着用下において、カーブなどの上下方向へ変化する球種を想定し、3段階の高さ（Normal-level:N-level、Upper-level:U-level、Beyond-level:B-level）に設定したVisual Target (VT) をTake-back 局面において視認させてから、ティースタンド上のボールを打たせた。打撃精度は、バットに貼付した打点記録紙上に打球痕を記録し、打撃面上の基準位置からの距離を、長軸 (LA) と短軸 (SA) 方向について求めた。

**【結果】** ヘルメット着用下では、打者のTake-back局面における初期頭部上方変位が非着用下よりも増幅した。LA上の打点位置はヘルメット着用下においてバット面上のグリップ方向に移動した。SA上の打点位置は、ヘルメット着用下では視認するVTが高ければ有意に低く (N-level=-4.27±14.65mm、U-level=-12.69±14.35mm、B-level=-16.83±16.61mm、N vs U:  $p<0.001$ 、N vs B: $p<0.001$ )、さらにB-levelのVTを視認する状況下では、ヘルメット着用下において非着用下よりも有意に低かった (With Helmet=-16.83±16.61mm、Without Helmet=-7.1±16.34mm:  $p<0.01$ )。

**【考察】** 野球用ヘルメット着用の有無は、初期頭部上方変位を増幅し、打撃精度に影響を与えることが示唆された。

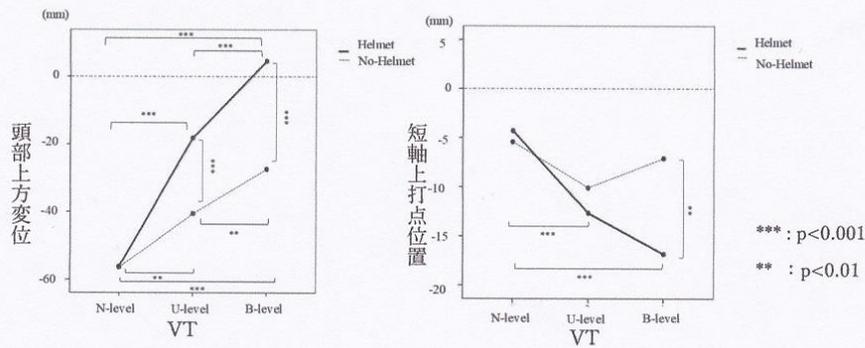
**【現場への提言】** ヘルメット着用下と非着用下の状況間で打点位置に有意差が存在したことは、打撃練習におけるヘルメット着用の必要性を強く支持するものである。現場では、ヘルメットを着用せずにスイングやトスバッティングなどの打撃練習を行う例が多く見られる。特に小学生から大学生までのアマチュア野球におけるこの傾向は大きな問題と考えられる。改善を狙う目的に特化した状況下で行うことが必要であるという、「トレーニングの特異性の原則」を照らし合わせても、また、上方に抜けるような軌道を描く「カーブ」に代表される球種への効果的な対応のためにも、打撃練習の基本から実践にいたるまで、ヘルメット着用が必要と考えられる。投手のレベルが高まる現代野球において、本研究は実践現場の指導指針として有益な情報になり得る。

【資料 3】

野球用ヘルメット着用が打者の頭部変位と打撃精度に与える影響  
 ～初期頭部上方変位を補正する動き～

赤池行平（東京国際大学）

【背景】野球の打撃に関する研究では、水平方向に移動する物体を視覚追従する研究はあるが、リリース直後に一瞬上方に抜けるような軌道を描く、「カーブ」に代表されるような球種に対する研究はほとんどない。また、視野制限をもたらす可能性がある野球用ツバ付きヘルメット（以下ヘルメット）の着用は、上方に抜けるような軌道を描く球種を視覚追従する際には、それに伴い頭部の上方への動きが大きくなるが、このような状況下における研究はほとんどない。【目的】本研究は、ヘルメットの着用の有無が、頭部動作と打撃精度に及ぼす影響について調べた。【方法】野球経験のある大学生 14 名にヘルメット着用下と非着用下において、カーブなどの上下方向へ変化する球種を想定し、3 段階の高さ（N-level、U-level、B-level）に設定した Visual Target（VT）を Take-back 局面において視認させてから、ティースタンド上のボールを打たせた。打撃精度は、バットに貼付した打点記録紙上に打球痕を記録し、打撃面上の基準位置からの距離を、長軸（LA）と短軸（SA）方向について求めた。



【結果】ヘルメット着用下では、打者の Take-back 局面における初期頭部上方変位が非着用下よりも増幅した。LA 上の打点位置はヘルメット着用下においてバット面上のグリップ方向に移動した。SA 上の打点位置は、視認する VT が高ければ有意に低く、さらにヘルメット着用下において非着用下よりも有意に低かった。【考察】野球用ヘルメット着用の有無は、初期頭部上方変位を増幅し、打撃精度に影響を与えることが示唆された。また、動作中の頭部変位-腰部変位、Impact 局面の頭部高さ-腰部高さに有意な相関が認められたことから、SA 上打点位置の変位は、股関節と膝関節・足関節を含む下肢関節の協同的な動作により生じたと考えられる。【現場への提言】様々な投球に対処できる能力を向上させるには、瞬発的なパワー発揮だけでなく、視認活動から得た情報に基づいて動作を微調整する能力を高めるトレーニングも必要である。

## ②企画マーケティング総括

### 1. 大学スポーツの事業化を題材とした教育的パネルディスカッションの実施

国際スポーツアドミニストレーター育成事業の一環として、「スポーツ・アドミニストレーション」の授業の中で、教育的パネルディスカッションを開催した。ここでいう教育的パネルディスカッションとは、将来、国際アドミニストレーターが自ら開催するであろう、公開討論活動の一環としてのパネルディスカッションについての基礎知識を習得する目的で開催されたものを指す。その詳細を【資料4】に示す。

## 【資料4】

### 1. 概要及び事前打ち合わせ等について

#### (1)概要

- ・ 講義名：スポーツ・アドミニストレーション 第14回
- ・ 日時：12月11日（水）13：10～14：40
- ・ 場所：第2キャンパス2311教室
- ・ 内容：教育的パネルディスカッション
- ・ テーマ：「大学スポーツの事業化に向けて～その課題と対策」
- ・ 受講者：スポーツ・アドミニストレーション受講生（170名程度）
- ・ ファシリテーター：上代圭子（「スポーツ・アドミニストレーション」担当教員）
- ・ パネリスト：
  - ①前田 秀樹（本学サッカー部監督）
  - ②阿部 隆行（SEI総括シニアスタッフ・本学サッカー部副部長）
  - ③村上 駿（スポーツフェスティバル担当学生）
  - ④坂本 愛里（スポーツフェスティバル担当学生）

### 2. パネルディスカッションの記録

#### (1) あいさつ（碓井外幸）

本講義は、基礎から応用へと能力を積み上げていく、言わば、専門職養成のための“積み上げ教育”の一環である。

#### (2) 教育的パネルディスカッションの説明（田部井潤）

- ・ 本パネルディスカッションの趣旨について

#### (3) 教育的パネルディスカッション

##### ①ファシリテーターより全体の説明、テーマ等の確認（上代圭子）

- ・ テーマの確認

本授業で行う教育的パネルディスカッションのテーマは「大学スポーツの事業化に向けて～その課題と対策～」である。受講生がこれまでイベントについて学び、受講生自身もイベントを開催したが、実際に本学で、一度限りではなく長年に亘りスポーツイベントを開催している関係者から話を聞くことで、スポーツイベントを開催する上での課題や、今後イベントを開催する際のポイントが見えてくるのではないかと期待している。

##### ②パネリスト4名からテーマに関する意見表明

○前田秀樹：サッカーフェスティバルの趣旨等に関して

- ・ 今年度のサッカーフェスティバルは、8月14日から8月16日まで3日間に亘って本学坂戸キャンパスの総合グラウンドで開催された。今回は12回目の開催であり、元々はサッカー部員を集めるための宣伝を兼ねて知り合いの高校サッカー部の監督に声をかけたフェスティバルであった。
- ・ 現在では、本大学の施設やスタッフを実際に見て知ってもらうだけでなく、送り出した高校の先生に対しては、その生徒が成長した姿を見せるという効果も含まれている。

○阿部隆行：サッカー部副部長としてイベントに関わって

- ・サッカーフェスティバルの開会式、リーグ戦、閉会式に関して、参加者の様子や学生スタッフの活動の様子などを中心にスライドショーにまとめて紹介した。
- ・本学学生スタッフが3日間に亘り、グラウンド設営、受付、審判、タイムキーパー、スコア係など裏方としてイベントを支えた。

○村上・坂本：学生スタッフとしてイベントに関わって

- ・前日までの準備に関しては、誰が（どのカテゴリーが）どの試合を担当するのかの役割分担を行なった。当日の運営に関しては、会場設営、受付、誘導、審判、審判補助、記録係（タイムキーパー、得点板など）などの業務があった。イベント当日は特に暑く、熱中症対策として、氷水をバケツに準備する作業を学生スタッフが行なった。審判の割り振りもあり、主審は審判資格を有する本学学生及び埼玉県サッカー協会所属の審判の方が務め、副審2名は本学学生が務めた。

③テーマ「大学スポーツの事業化に向けて～その課題と対策～」についての討議

＜大学スポーツの事業化に向けて＞

- ・事業化というと、参加者や観客から参加費や観戦料などを徴収し、収益をあげるイメージがあるが、本イベントはそういった性質のものではない（前田監督）。
- ・学生スタッフが、主体的に活動に関わることで、責任感や自主性が芽生え、イベントを裏方として支えることは、今後の選手生活にとっても、卒業後の社会生活にとっても非常に有益であると考え（阿部副部長）。
- ・充実したスポーツ施設や学生スタッフの真摯な対応を通して、東京国際大学に入学したい、サッカー部に入部したいという高校生が増えることが期待できる（前田監督）。
- ・本学サッカー部員が母校の高校指導者に、人間的に成長した姿をみせることにより、サッカーだけではなく人間教育もきちんとしていることを伝え、今後本学進学を高校指導者が勧めてくれることが期待できる（前田監督）。
- ・通常は、選手として試合をプレーするだけなので、このような裏方の仕事の大変さと重要性について改めて実感した。裏方のスタッフの支えがあって試合ができていたということを知ったので、今後の競技人生にも生かしていきたい（学生スタッフ）。

④会場からの意見

- ・周辺施設の利用などの「地域貢献」の部分についてもう少し詳しく教えて欲しい。

(4) あいさつ（碓井外幸）

「パネルディスカッション」に関しては、ほぼ初めての経験となる学生にとっては、大変だったと考える。また、先生方にとっても、90分間の中で実施するのは、時間的制約があり大変だったと思う。今後、今回の取り組みを参考にして、皆さんに将来担ってほしい、イベントとパネルディスカッションの参考になればと願う。

## 2. 集客イベントの実施

前年度に引き続き、各強化クラブの対外的な社会貢献活動を報告する。本年度は、本学男子サッカー部並びにチアリーディング部の活動を【資料5】において報告する。

## 【資料 5】

### [1] サッカー部

1. 事業名：東京国際大学 SOCCER FESTIVAL 2019
2. 事業目的：サッカーのスポーツイベントを通じた社会貢献（参加者及び主催者の交流、地域貢献、大学スポーツへの理解等）
3. 事業内容：広域地域の高校生を対象としたサッカー交流大会
4. 参加校（14 チーム）：浦和学院高等学校、鹿島学園高等学校、暁星国際高等学校、埼玉平成高等学校、翔凛高等学校、西武台高等学校、成立学園高等学校、中央学院高等学校、日本体育大学柏高等学校、羽黒高等学校、水戸啓明高等学校、水戸ホーリーホックユース、矢板中央高等学校、横浜創学館高等学校
5. 参加者：高校年代 14 チームの選手及び指導者 約 400 名
6. 実施期日：2019 年 8 月 14 日（水）～8 月 16 日（金）
7. 事業実施場所：東京国際大学坂戸キャンパス総合グラウンド
8. 事業開催要項及び対戦表（下記参照）

## 第12回東京国際大学サッカーフェスティバル

### < 開催要項 >

- |             |  |
|-------------|--|
| 1. 主催       | 東京国際大学   |
| 2. 期日       | 2019 年 8 月 14 日（水）～8 月 16 日（金）   |
| 3. 会場       | 東京国際大学坂戸キャンパス総合グラウンド   |
| 4. 競技方法     | (1)リーグ戦（組み合わせは実行委員会により決定します）<br>(2)試合時間は 50 分とし、ハーフタイムのインターバルは前半終了後 10 分とします。<br>(3)本大会において、退場を命じられた選手は次の 1 試合に出場できません。<br>ただし、本大会は強化目的のため、その場で 1 人補充できます。<br>(4)大会期間中、警告を 2 回受けたものは次の 1 試合に出場できません。                       |
| 5. 競技規則     | (1)2019 年度 財団法人日本サッカー協会制定の競技規則に準じます。<br>主審は鶴ヶ島市審判委員会及び坂戸市審判委員会、副審（4 級）2 名は本学サッカー部員が行います。<br>(2)選手交代は試合開始前に最大 7 人までの選手を主審に通告しておき、そのうち 7 人まで主審に許可を得て交代することが出来ます。   |
| 6. 参加料      | 大会エントリー費は不要です。   |
| 7. 表彰       | 優勝・準優勝チームにトロフィー・表彰状を授与します。<br>参加チームには大会参加記念として参加賞を授与します。   |
| 8. 傷害補償     | 参加選手は各自傷害保険に加入してください。<br>大会期間中の傷害・疾病への応急処置・病院の手配はしますが、その後の責任は負いかねます。   |
| 9. 代表者・監督会議 | 8 月 14 日（水） 19:00～（※ 会費 5,000 円/人）<br>場所：坂戸グランドホテル   |
| 10. 開会式     | 8 月 14 日（水） 9:30～  |
| 11. 閉会式     | 8 月 16 日（金） 決勝戦終了後直ちに行います。   |
| 12. その他     | (1)出場するチームは A（TOP）チームの参加を原則とします。<br>(2)大会に登録できる選手は 30 名までとします。<br>(3)大会参加に要する交通費等は各チームの負担とします。<br>(4)大会試合以外にフレンドリーマッチを行うことが出来ますので、希望チームは実行委員会 鬼塚までお申し出ください。<br>(5)大会参加に際して、提供される個人情報には本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。 |
| 13. 大会事務局   | 〒350-1197<br>埼玉県川越市の場北 1-13-1<br>東京国際大学 第 1 キャンパス スポーツ推進課内<br>サッカーフェスティバル実行委員会   |

## ＜対戦表＞

■ 8月14日(水)		【第1グラウンド】	【第2グラウンド】	【第3グラウンド】
9:30～			開会式	
10:00～	埼玉平成 vs 成立学園		西武台 vs 横浜創学館	翔凜 vs 水戸ユース
11:30～	水戸啓明 vs 晩星国際		浦和学院 vs 柏日体	矢板中央 vs 鹿島学園
13:00～	成立学園 vs 羽黒		横浜創学館 vs 中央学院	埼玉平成 vs 水戸ユース
14:30～	千葉翔凜 vs 水戸啓明		西武台 vs 柏日体	浦和学院 vs 矢板中央
16:00～	翔凜 vs 羽黒		横浜創学館 vs 鹿島学園	

■ 8月15日(木)		【第1グラウンド】	【第2グラウンド】	【第3グラウンド】
9:00～	水戸ユース vs 羽黒		柏日体 vs 中央学院	埼玉平成 vs 水戸啓明
10:30～	翔凜 vs 晩星国際		西武台 vs 矢板中央	浦和学院 vs 鹿島学園
12:00～	水戸啓明 vs 羽黒		浦和学院 vs 中央学院	成立学園 vs 水戸ユース
13:30～	埼玉平成 vs 晩星国際		横浜創学館 vs 柏日体	西武台 vs 鹿島学園
15:00～	成立学園 vs 晩星国際		矢板中央 vs 中央学院	フレンドリーマッチ
16:20～	フレンドリーマッチ		フレンドリーマッチ	
17:30～	フレンドリーマッチ		フレンドリーマッチ	

■ 8月16日(金)		【第1グラウンド】	【第2グラウンド】	【第3グラウンド】
9:00～	埼玉平成 vs 翔凜		西武台 vs 浦和学院	成立学園 vs 水戸啓明
10:30～	水戸ユース vs 晩星国際		横浜創学館 vs 矢板中央	柏日体 vs 鹿島学園
12:00～	埼玉平成 vs 羽黒		西武台 vs 中央学院	翔凜 vs 成立学園
13:30～	水戸啓明 vs 水戸ユース		浦和学院 vs 横浜創学館	矢板中央 vs 柏日体
15:00～	晩星国際 vs 羽黒		鹿島学園 vs 中央学院	フレンドリーマッチ
16:20～			閉会式	
17:00～	フレンドリーマッチ		フレンドリーマッチ	

※ 試合時間  
25分-10分-25分

Aグループ		1	2	3	4	5	6	7	Bグループ		8	9	10	11	12	13	14
1	埼玉平成								8	西武台							
2	翔凜								9	浦和学院							
3	成立学園								10	横浜創学館							
4	水戸啓明								11	矢板中央							
5	水戸ユース								12	柏日体							
6	晩星国際								13	鹿島学園							
7	羽黒								14	中央学院							

### 9. 事業後所感等

#### (1) 大会運営に関して

- ・大会エントリー費及び応援の観戦料も無料ということで、直接収益を上げることが目的ではない。しかしながら、お弁当や氷、飲み物等の大量注文、参加者の宿泊施設の使用、最寄りの西大駅、周辺商業施設の利用など、間接的ではあるが地域貢献ができています。
- ・初日の大雨や最終日の真夏日の中での開催となり、大会を行う環境としては厳しい状況となったが、競技時間を変更したり、氷やドリンクを準備して熱中症対策をしたりするなど、学生スタッフ含め実行委員会全体で臨機応変に対応することができた。
- ・運営に当たった学生スタッフからは、普段あまり意識することのなかった裏方の仕事を体験することができ、今後の競技人生等にも繋がるというコメントを得た。
- ・B戦（控え選手同士の試合）やフレンドリーマッチも出来る環境を作り、なるべく多くの選手が試合に参加できるようにした結果、各チームが底上げを図ることができていた。
- ・フェスティバル当日の観戦者も多く、ベンチだけではなく観客席も盛り上がりを見せていた。

#### (2) 参加校の指導者からの声

- ・素晴らしいスポーツ施設で試合をすることができたり、高校生、大学指導者、学生との交

流が図れたりして良かった。また来年も参加したい。

- ・全国レベルの高校同士が都道府県の所属を超えて対戦することにより、お互いのチームのレベルアップを図ることができた。今度は全国大会で対戦したいというモチベーション向上にもつながった。
- ・学生スタッフが気持ち良く対応してくれてとても好感が持てた。

## 10. イベント当日の様子

①開会式の様子（倉田理事長・総長挨拶）



②試合前挨拶（線審：本学学生）



③試合の様子



④試合後挨拶



⑤学生スタッフの様子（オフィシャル）



⑥学生スタッフの様子（受付）



⑦閉会式（優勝・準優勝チーム表彰）



⑧閉会式（主催者代表挨拶・前田監督）



## [2]チアリーディング部

### 1. 学外活動

- ・2019/5/10 春の全国交通安全運動出発式
- ・2019/7/20 さつき保育園

学外活動により、社会貢献を行った。

交通安全イベントでは演技披露をさせて頂き、その後、地域の方々に交通安全のチラシ、反射板をお配りし、交通安全の地域活動に貢献できた。

保育園イベントでは夏祭りにて演技をした後に、子供達を上に乗せる体験を実施した。子供達にチアリーディングの楽しさを実感していただいた。

### 2. 合同練習会

- ・2019/8/3・4 MHS ジュニアチアリーディングクラブ、SSC 谷原アルファ
- ・2020/2/9 SSC 谷原キッズ

ジュニア・キッズチームとの練習会では、部員が指導をさせて頂く貴重な機会となり、実行する以上に伝える難しさを学んだ。子供達の一生懸命な取組を見ていると、チアリーディングの発展や周知活動に大きく関わる活動だという事を改めて実感した。

③SEI (Sports&English communication Integration) 事業総括

【国際スポーツアドミニストレーター育成事業の一環としての英語科目とスポーツ科目を、大学スポーツ振興事業として実施】

英語科目の具体的な科目名は

Communication Basic II (60分×45回) 【資料6】

English Comprehension II (60分×45回) 【資料7】

また、新しい事業として

「スポーツ・アドミニストレーション入門」 (SA 入門) 【資料8】

に続く「スポーツ・アドミニストレーション」 (SA) 【資料9】

の科目を立ち上げた。

それぞれの授業において、学生による授業評価【資料10-1】、教員、またSAについては授業の立ち上げなどに関わらなかった第三者(教員)による授業評価【資料10-2】も行った。

これらをまとめ、次年度実施に向けての改善点などを考察した【資料11】。

なお、SAについては、授業内容において「大学スポーツの事業化という観点」が重要となるため、企画マーケティングのスタッフが主体となり、SEI 事業総括がサポートして実施した(②企画マーケティング総括の【資料4】)。

【資料6】

「Communication Basic II」 (Amy Little、Kevin Mueller) 授業内容

第1回 Course introduction

第2回 Note-taking skills and making inferences based on lecture

第3回 Pronunciation and Note-taking skills

第4回 Speaking practice and Pair/group discussion

第5回 Class discussion on theme of: What's more important: taste or nutrition?

第6回 Expression highlight: cause/effect statements. Group discussion on opinions of lecture

第7回 Vocabulary practice

第8回 Speaking practice (pair/group)

第9回 Class discussion on psychology topic

第10回 Pronunciation practice of intonation of tag questions

第11回 Discuss opinions of interview with psychology professor

第12回 Living reasons

第13回 Group discussion: advantages and disadvantages of change based on life situations

第14回 Introduction of topic with leading questions for group discussion

第15回 Listen and take notes on short video lecture focusing on identifying facts and opinions

第16回 Preview listening interview with pair/group discussion

第17回 Pronunciation practice: intonation in questions

第18回 Group discussion: How can advertisers change our behavior?

第19回 Groups short presentation of one of the topics they discussed

第20回 Introduction of topic with group/pair discussion

第21回 Listen to a talk about risks that writers took to become published

第22回 Listen to a report on scientists with risky jobs.

第23回 Vocabulary skill focus

第24回 Prepare and give one-minute presentation about a risk you took in your life

第25回 Introduction of topic with group/pair discussion

- 第26回 Listen to short talk and note-taking
- 第27回 Students listen and answer comprehension questions
- 第28回 Pronunciation: stress on important words
- 第29回 Group discussion: List issues that affect your world
- 第30回 Gather ideas and then follow rubric to organize ideas
- 第31回 Class/group discussion on economics topic
- 第32回 Discuss in pair/group
- 第33回 Vocabulary: idioms of sudden action
- 第34回 Pronunciation: intonation in different types of sentences and Speaking skill
- 第35回 Group discussion: Money and happiness
- 第36回 What kind of person may be happier with more money? Why?
- 第37回 Group/pair discussion on theme of: What can we learn from success and failure?
- 第38回 Listen and take notes on short lecture by professor about luck and success
- 第39回 Speaking skill: asking for and giving clarification
- 第40回 Pair discussion: read quotes on success and failure
- 第41回 Discuss whether or not you agree / disagree with the quote
- 第42回 Vocabulary skill: context clues to identify meaning
- 第43回 What do you think about ads that might make people angry?
- 第44回 Listen, take notes and answer comprehension questions to interview
- 第45回 Listen to short interview with psychology professor noting the time markers

**【資料7】**

「English Comprehension II」 (Kevin Mueller) 授業内容

- 第1回 Group discussion on topic of “Why do people take risks?”
- 第2回 Vocabulary practice: preparation for reading National Geographic News article
- 第3回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provided
- 第4回 Vocabulary practice: preparation for reading article from a book excerpt
- 第5回 Vocabulary practice: using a dictionary to find the correct meaning
- 第6回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provided
- 第7回 Narrative essay writing on topic “A risk I took” ; Brainstorm; organize using an outline
- 第8回 Narrative essay writing on topic “A risk I took” ; peer edit and teacher edit
- 第9回 Group discussion on topic of “Altruism: Why do people help each other?, etc.”
- 第10回 Preparation for reading an article from a news magazine about “the bystander effect”
- 第11回 Read article and answer vocabulary, main idea, and questions about details
- 第12回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provided

- 第13回 Vocabulary practice: preparation for reading science journal article about the biology of altruism
- 第14回 Read article and answer vocabulary, main idea, and questions about details
- 第15回 Vocabulary practice: phrasal verbs
- 第16回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provide
- 第17回 Analysis essay writing on topic
- 第18回 Analysis essay writing on topic “Why people help each other?” ; begin writing
- 第19回 Analysis essay writing on topic “A risk I took”
- 第20回 Group discussion on topic of “How can a small amount of money help?” etc.”
- 第21回 Speaking: discuss the meaning of various proverbs and share opinions in groups
- 第22回 Preparation for reading an article about how a girl from a poor village became a college student
- 第23回 Read article and answer vocabulary, main idea, and questions about details;
- 第24回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provided
- 第25回 Vocabulary practice: preparation for reading science journal article about the biology of altruism
- 第26回 Read article and answer vocabulary, main idea, and questions about details; using a timeline
- 第27回 Vocabulary practice: collocations with nouns
- 第28回 Writing: students write opinions about the article with leading questions provided
- 第29回 Cause-effect essay writing on topic “How can a small amount of money help others?”
- 第30回 Analysis essay writing on topic “How can a small amount of money help others?” ;
- 第31回 Brainstorm topic
- 第32回 Class discussion on topic and how to collect sources
- 第33回 Peer edit and teacher edit on outlines
- 第34回 Present outlines in small groups
- 第35回 Target vocabulary practice related to topic
- 第36回 Readings on charity reports
- 第37回 Draft first draft
- 第38回 Share rough draft with group
- 第39回 Begin 2nd draft
- 第40回 Peer editing
- 第41回 Prepare mini presentation on topic to share with class
- 第42回 Present to class
- 第43回 Meetings with instructor for paper feedback
- 第44回 Continue editing in class
- 第45回 Final Exam and final paper due

## 【資料8】

「スポーツ・アドミニストレーション入門」（布川清彦）授業内容

- 第1回（9月4日）：ガイダンス 碓井外幸（SA）
- 第2回（9月11日）：スポーツがもつ価値とは 阿部隆行（シニアスタッフ）
- 第3回（9月18日）：トップアスリートの栄養学 堀川昭子（シニアスタッフ）
- 第4回（9月25日）：職業としてのスポーツ指導 赤池行平（シニアスタッフ）
- 第5回（10月2日）：激動の時代を生き抜こう 古田敦也（特命・客員教授）
- 第6回（10月9日）：スポーツ国際大会の運営の開催 佐藤直子（客員教授）
- 第7回（10月16日）：スポーツ国際大会の運営の実際 高橋孝徳（本学専任講師）
- 第8回（10月30日）：アメリカ大学スポーツ事情 大原伸（硬式野球部スカウティング）
- 第9回（11月6日）：競技生活とその後のキャリア 田中マキ子（スタッフ）
- 第10回（11月13日）：持続可能なスポーツ社会 古田敦也（特命・客員教授）
- 第11回（11月20日）：スポーツマネジメント 大原伸（硬式野球部スカウティング）
- 第12回（11月27日）：スポーツによる国際貢献 宇津木妙子（客員教授）
- 第13回（12月4日）：オリンピックの意義 三宅義信（特命・客員教授）
- 第14回（12月11日）：スポーツにおける平常心 麓正樹（シニアスタッフ）

## 【資料9】

「スポーツ・アドミニストレーション」（上代圭子）授業内容

- 第1回（9月4日）：オリエンテーション（本授業の目的・進め方などの説明）
- 第2回（9月11日）：「イベントとは何か」について学ぶ
- 第3回（9月18日）：国際的スポーツイベントについて学ぶ
- 第4回（9月25日）：スポーツイベントで活躍する選手について学ぶ
- 第5回（10月2日）：イベントの計画・立案方法を学ぶ
- 第6回（10月9日）：イベント実施時の危機管理について学ぶ
- 第7回（10月16日）：イベントのテーマの内容について学ぶ
- 第8回（10月30日）：イベントプログラムを計画・立案する
- 第9回（11月6日）：運営に則した方法・技術を学ぶ
- 第10回（11月13日）：学内イベントの実施1
- 第11回（11月20日）：学内イベントの実施2
- 第12回（11月27日）：反省点をあぶり出す（アンケート結果の集計・分析）
- 第13回（12月4日）：反省点を振り返る（グループワーク→クラス全体でのディスカッション）
- 第14回（12月11日）：教育的パネルディスカッション（大学スポーツの事業化に向けて～その課題と対策～）

【資料 10-1】

スポーツ・アドミニストレーション お客さん役の学生による評価

【調査概要】

調査対象：スポーツ・アドミニストレーションのイベントに参加した者（N=202）

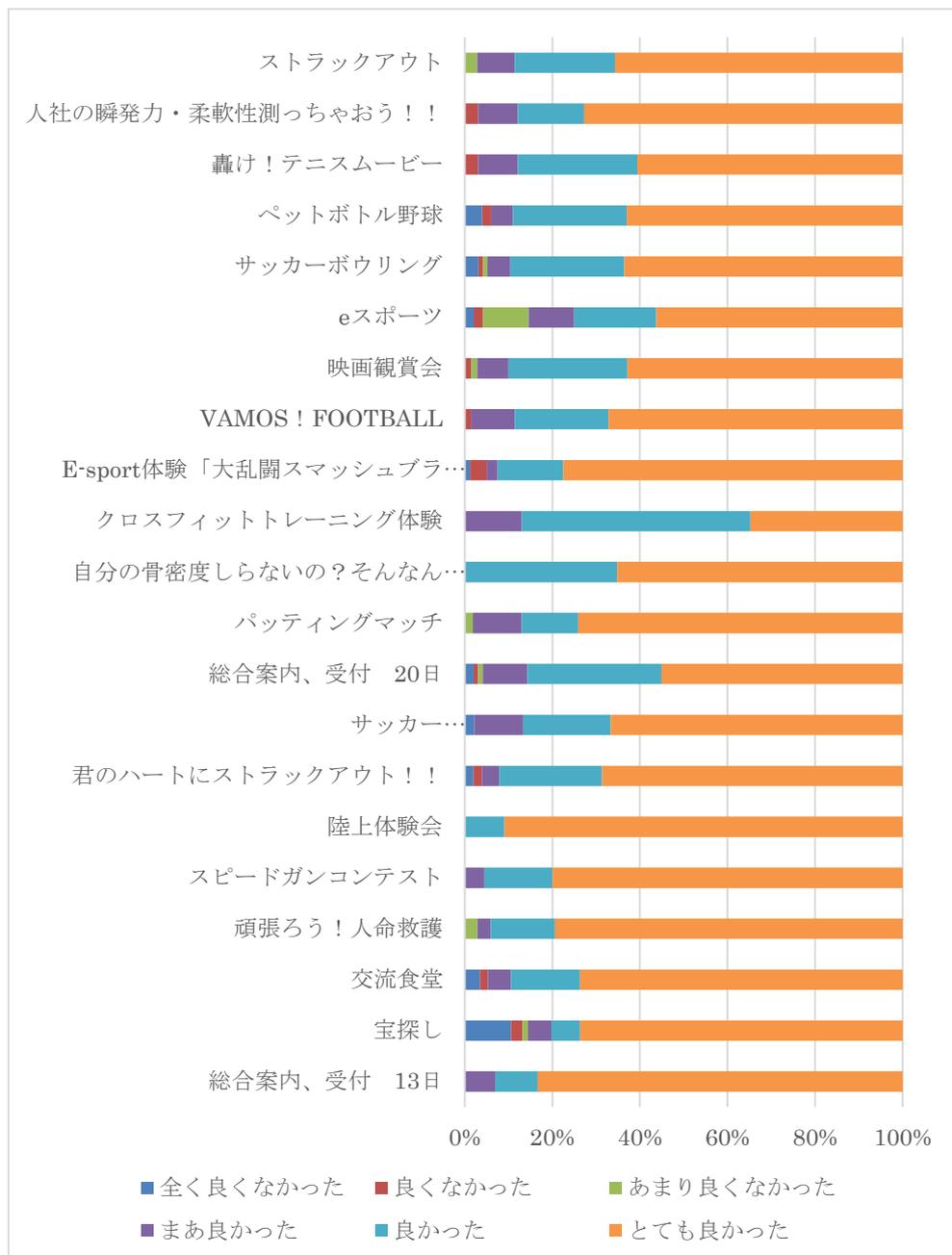
調査方法：質問紙調査（直接配布・回収）

調査期間：2019年11月13日（水）・20日（水）

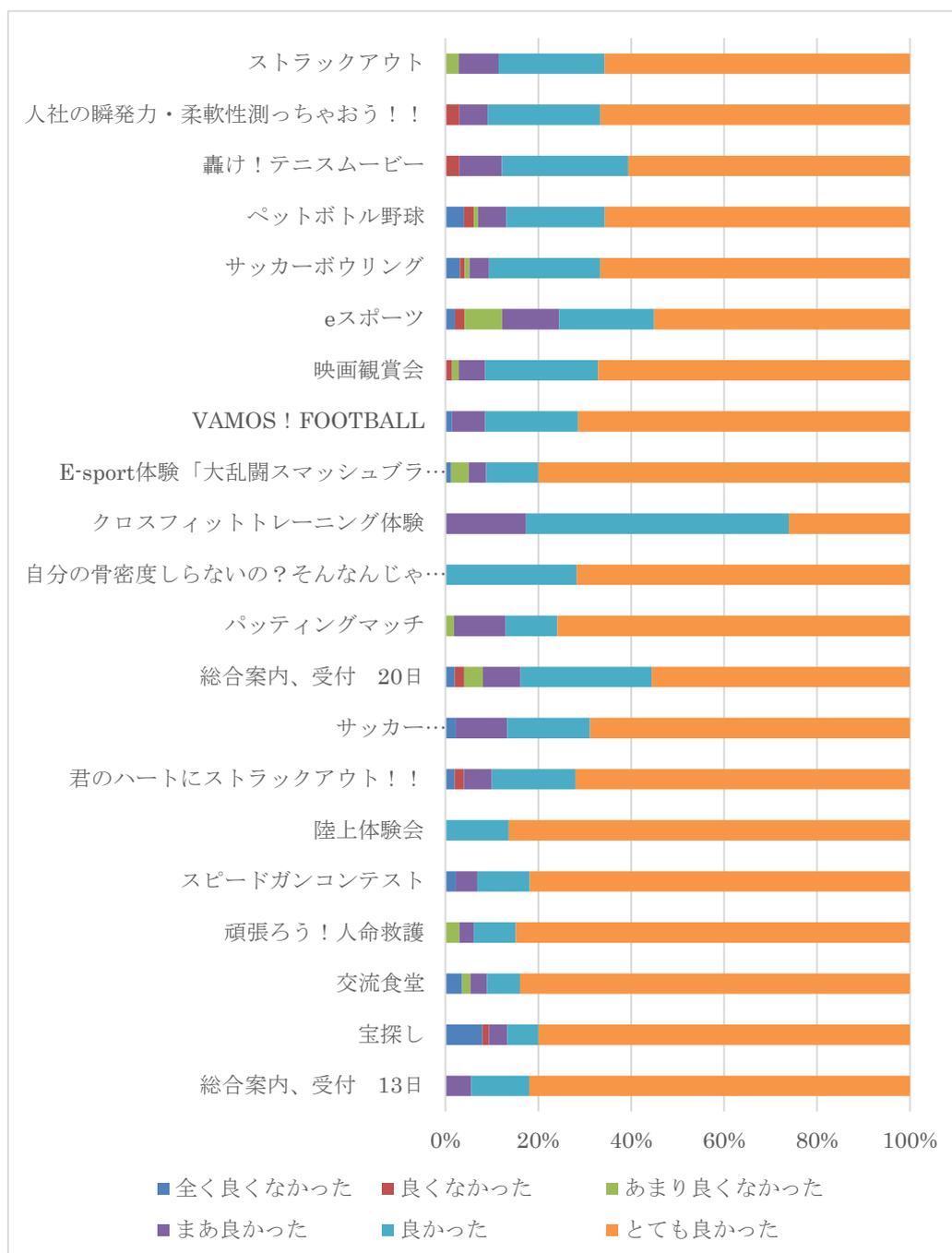
分析方法：単純集計

調査内容：①イベント内容についての評価、②イベントスタッフの態度についての評価「とても良かった：6」から「全く良くなかった：1」での6段階評価、③自由記述

①イベント内容について評価



## ② イベントスタッフの態度についての評価



## ③ 自由記述

### スポーツアドミニストレーション アンケート自由記述

- 初心者の自分に分かりやすく、丁寧におしえてくださって、イベントも楽しくできました。分からないところも個人個人に分かりやすく教えてくれました。
- 普段、交流の少ない先輩方とお話しができて、とても楽しい時間を過ごすことができました。また来年もこのようなイベントが開催されるのならば、また楽しみたいです。
- 陸上部の体験は、大会で凄い結果を残しているだけあって、イベントの内容や態度なども他の部活より、しっかりとしている印象だった。今回のような機会がなければ普段身体を動かさないし、人とコミュニケーションを取ることも少ないので良い機会だ

った。

- 日常で関わらない先輩とコミュニケーションが取れ、またお話しもできて、とてもたのしいです。普段、全くしない運動ができたので良い機会でした。
- 初めてこのようなイベントにゼミで参加しましたが、楽しかったものがたくさんありました。優しく声をかけてくれた人たちもいて、よかったです。また機会があったら参加したいと思いました。
- 分からない事が分かり、初めて話しをした人や、人命救護の方法も知れたので良かったです。積極的にできました。
- 全部のイベント楽しかったし、良い勉強にもなった。特に、トレーニング体験で復帰のトレーニング方法は、今日で一番正しいやり方が分かったので、本当に色々学んだ。
- 楽しかったし、内容も濃くて良かった。ゲームもよくするので e-sport の体験ができてとても良かった。多くの経験ができたので楽しくできたし、またやってみたい。
- サッカーの映像は、ハイライト集で見たことがあるものもあったので、復習をしていた感じでした。「乱闘スマッシュブラザーズ」は子供の頃に帰った感覚で楽しめました。
- ゴルフのパターがすごく楽しかった。サッカーの動画集はとてもよかったです。E-Sports は初めてやってみて、みんなと仲よくやれて、すごく盛り上がりました。
- 自分の骨密度を知ることができて良かった。ペットボトル野球の感じが、思っていたことと全く異なっていたので、違う楽しさがあった。VAMOS FOOTBALL での本田圭祐の言葉は、よく理解できた。
- 1人でも多くの方に楽しんでもらえるようなイベントを考えてくれていることが今回の活動を通して学ぶことができた。丁寧に分かりやすくイベント内容を説明していたので、すぐ理解して楽しむことができた。
- 今日のイベントはとても楽しかったし、先輩達も快くむかえてくれました。スポーツも実際に体験できてよかったです。スマブラは初めてやったが、これからはがんばろうと思った。
- それぞれのイベントがしっかり考えられていた内容であったので、楽しかった。イベントの半分しか参加できなかったが、どれも良い雰囲気だった。また機会があれば参加したい。
- 先輩方と関わる機会が全くなかったのが、今回で様々な人と接することができて、良かった。スマブラは本当におもしろかったです。
- 大学に入ってから、スポーツをする機会が減って運動不足でした。ヨガをやったことにより、さらに運動不足を実感したので、これからは運動しようと思う、いい体験ができました。e-スポーツをやっている人を見るのも楽しいが、普段、e-スポーツをやっていない人を見るのも予想外の連続で、おもしろかったです。さらに、e-スポーツに興味を持ちました。
- e-スポーツの体験でウイイレというゲームをして、スタッフの方が操作の仕方やゲームの説明をして下さったから、とても楽しくできた。クロスフィットとトレーニング体験でヨガを丁寧に教えて下さったので、今後、部活の後にしたいと思った。
- 普段、なかなか測れない柔軟性や瞬発力、体脂肪などを測ることができたので、貴重な体験だなと思いました。e-スポーツ体験など、新しいイベントもあっておもしろいと思いました。学生の人達も優しい人達が多くて良かったと思います。
- どこをまわっても短い時間なのに、良いクオリティで、短い時間でも楽しめることができた。骨密度や体脂肪率なども計ることができ、体脂肪率はあまり高くなくてほっとしました。また、瞬発力や柔軟性の測定ところでは、自分の身体の硬さを知ることができました。どこのイベントを回っても、とても楽しむことができてよかったです。
- 受け付けの人達が丁寧に接して下さり、また、やる内容も分かりやすかったのが、よかったです。内容もおもしろく、少し工夫されているところがあったので、よかったです。また、普段はしない体験ができたりしたので良い経験ができたと思った。
- どのイベントもスタッフが分かりやすく教えてくれたので、楽しかった。特にクロス

フィットではヨガを教えてもらったので、これからの部活で活かしていこうと思うものを教えてもらえて、良かった。

- 参加型のゲームは、とても盛り上がっていて、楽しかったです。特に e-スポーツやサッカーボウリングでは、先輩方がたくさん盛り上げてくれたので、みんな楽しくできました。またやりたいと思いました。映画は、もっと面白いものがあれば良かったと思います。
- e-Sport 体験は、全くルールを知らずに参加しましたが、優しく教えてくれたので、とても楽しくゲームをすることができました。クロスフィットではヨガをやりました。教えてくれた人がとても上手で、分かりやすかったです。
- それぞれのイベントには楽しい象徴があり、とても楽しめた。普段しないゴルフなどをして、他のスポーツにも興味がわいた。
- どのイベントもとても楽しくやらせていただきました。自分もこの授業を取りたいと思いました。みんな元気で明るかったです。
- 反応時間がアスリートレベルだったので、まだ運動を続けていきたいと思った。
- どのイベントも笑顔で快く受け入れてくれたので、良かったです。
- どこもクオリティが高くて良かった！！
- 骨密度を測る機会はあまりないので、自分の骨密度が知れて良かったです。
- e-スポーツが楽しかったです。スイッチがほしいです。スマブラもほしいです。映画鑑賞も良かったです。
- サッカーボウリングの雰囲気良く、やりやすかった。
- サッカーボウリングのスタッフさん達の雰囲気がすごく良かった。丁寧に教えてくれ、失敗しても盛り上げてくれたので、楽しくイベントに参加することができた。スタッフさんの中で、特に良い対応をしてくれた人もいた。

【資料 10-2】

① スポーツ・アドミニストレーション 学内イベント1 第三者（教員）による授業評価1

日時：2019年11月13日

評価者：鄭 志誠（本授業には関与していないスタッフ）

1) シラバス等からの授業のねらい

スポーツイベントを実施するための基礎的知識を習得するために、ニーズに即したイベントの企画・準備・運営を実践してみる。

2) 観察から見られた授業場面

積極的に参加している学生も多く、イベントを企画し運営を体験する主旨に添っていたように思います。

一方、お客さん役で参加した学生の中には「スタンプだけが欲しい、内容にはあまり興味がない」という感じのものもいた。今後、この点をさらに改善できると、一層よい授業になると思いました。

3) 授業のねらいと授業場面と比較・評価

概ね合致しているように感じました。

② スポーツ・アドミニストレーション 学内イベント2 第三者（教員）による授業評価2

日時：2019年11月20日

評価者：田中マキ子（本授業には関与していないスタッフ）

1) シラバス等からの授業のねらい

大学スポーツ振興推進事業の重要な目的の一つ、「スポーツアドミニストレータの育成」を念頭に置き、本授業で仮想イベントを実施することにより、スポーツイベントの理解を深め、ニーズに即したイベントの企画と準備を経験する。

2) 観察から見られた授業場面

参加学生に声をかけて各イベントへの参加を呼びかけるなど、積極的な姿勢が見られ、体験型のイベントでは、場を盛り上げ、参加者も楽しみながら実施することができていたと感じた。一方、映像を鑑賞するイベントでは、あまり人が入っていないように見受けられた。イベント開始時の受付は、人が一度に集中したため、1つのテーブルと2名での対応は難しかったように思う。（他の教員からは、受付担当学生の対応もあまり急いでいる様子がなく、脚を組んで接客するなど態度が良くないという指摘を受けた）

3) 授業のねらいと授業場面と比較・評価

今回の仮想イベントへ向けて学生たちが話し合い、それぞれの持ち味を活かしたイベントを企画し、役割分担や接客対応についても準備されており、概ね授業の狙いと合致していると感じた。

しかし、実際にイベントを実施してみて、想定通りできなかった部分については、今後の改善点として活かしてほしいと思う。

## 【資料 11】

本事業の最終報告をするに当たり、SEI 事業総括のこれまでの活動を振り返ると、初期の目標に向かってスタートしたものの、十分とはいえなかった。このことから、今後の望ましい展開を考えるに当たり、以下の問題点を指摘する。

英語科目「English comprehensionⅡ」と「Communication basic Ⅱ」（グローバルスポーツプログラム及びSEI 事業関連）の受講者数が少ない（2019 年度 春学期 12 名（1 年生）、秋学期 5 名（1 年生））。

昨年度も指摘したが、この原因は、

- 1) 意欲のある 2 年生が受講していないこと、
- 2) SEI 事業関連（およびグローバルスポーツプログラム関連）の受講者と他の受講者（通常の英語授業）との合同授業になっていること、
- 3) スポーツ系学科が多く在籍する第 2 キャンパスではなく第 1 キャンパスで行われていること、

があげられる。

上記 1) と関連して、意欲のある 2 年生がほとんど受講できていない理由は、水曜と木曜 1、2 限の英語授業において、水曜 2 限に 2 年生対象の基礎演習が入っていることが挙げられる。やる気のある学生のほとんどは演習に所属しており、水曜 2 限の英語授業を受講することができない。他方、1 年生への周知にも問題があるかもしれない（履修登録期間に十分検討できていない可能性がある）。意欲のある 2 年生が受講できるように、英語授業の開始時間を早める、開講曜日を変更するなどの措置が必要である。

「English comprehensionⅡ」と「Communication basic Ⅱ」の内容は、SEI 事業関連以外の学生が受講する内容と同じであり、スポーツの内容が含まれていない。SEI 事業総括は、「スポーツ力」と「英語力」の統合を目指しているため、スポーツ科目への英語導入、英語科目へのスポーツ内容の導入は必須と思われる。

スポーツ科目「スポーツ・アドミニストレーション入門」（受講者数 198 名）と「スポーツ・アドミニストレーション」（受講者数 229 名）において、後者の受講者数が多すぎることは、両科目が「国際スポーツアドミニストレーター認定」という称号認定に関わる科目としては、“積み上げ式の科目”と捉えられることから、好ましくない。また、授業の質保証の観点からも改善が必要である。

#### (4) 今後の予定

##### ①強化クラブ総括

###### 【大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施の予定】

- ・科学的知見に基づくコラム“野球一考”を、長野県野球専門誌「nines」に掲載（東京国際大学；赤池行平）。
- ・高校生に対する医科学的知見に基づいたトレーニング指導の継続（東京国際大学；赤池行平）
- ・全国高等学校野球選手権長野大会決勝戦のラジオ実況解説（東京国際大学；赤池行平：信越放送ラジオ 2020年7月予定）
- ・各種学会に研究成果の発表
- ・スポーツクラブ部員の学業成績管理制度については、クラブ部長が部員の学業成績状況を成績管理システムでチェックをしており、成績不良学生については適宜面接指導を行っている。現在の指導方法に加えて、指導基準や罰則等を設定することの教育効果を検討していく。

##### ②企画マーケティング総括

- ・各強化クラブの社会貢献ないしは事業の実施及び報告書の作成を進める。
- ・サッカー部、チアリーディング部、硬式庭球部の取組をもとに、スポーツイベントの実施の可能性を探る。

##### ③SEI 事業総括

本年度実施の英語科目、スポーツ科目は将来的に「国際スポーツアドミニストレーター認定」という称号認定のための最重要科目となる。このため、スポーツ科目として、スポーツ・アドミニストレーション入門、スポーツ・アドミニストレーションに続く上位科目として、次年度は「スポーツ・アドミニストレーション実習」の新規開講を検討している。

また、今後その他の科目の整備とあわせて、本年度の反省を踏まえて、位置づけを明確にしていく予定である。

すなわち、「国際スポーツアドミニストレーター認定」課程関連科目として、

【必修科目】基幹科目：スポーツ・アドミニストレーション入門、スポーツ・アドミニストレーション、スポーツ・アドミニストレーション実習(2020年度開講検討中)、English comprehension II、Communication basic II、卒業研究、

その他の科目：スポーツビジネスマネジメント、スポーツ政策、スポーツ経営学、スポーツ英語、スポーツ法学、コミュニティスポーツ論、国際スポーツ文化論

【選択科目】実践スポーツ英語、ボランティア活動、スポーツボランティア論、スポーツ産業論、統計学入門、健康・スポーツ科学、健康管理概論、スポーツ栄養学、スポーツジャーナリズム

を設定する予定である。

この中で、本事業関連のスポーツ科目と英語科目は、必修科目の中でも基幹科目に位置づけられる重要な科目となる。また、将来的にはこれらの科目に加えて、学内外のスポーツボランティアやスポーツイベント参加についても、課程に加えていく予定である。

以上